

平成24年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	B 1	取組 名称	京都をめぐる、ドイツを愛した日本の作家たち
研究代表者： 文学部			職・氏名： 教授・青地伯水
研究担当者： 京都府立大学（赤瀬信吾、勝山（寺井）紘子、永畑紗織、石澤将人） 外部分担者・協力者（なし）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） なし			
【研究活動の要約】			
<p>今回の取り組みは、近現代の日本の作家、画家の視点を通して、京都の町、自然を見つめ直すことです。また、それらの作家、画家が一方でドイツの町、自然にいかなるまなざしを向けていたかを知ること、おのずとドイツ文化と京都文化との比較となります。</p> <p>今年度は、メンバー5人が集まって2度の研究会を開き、2名ずつが発表する形でその研究成果を共有しあいました。さらには、1月28日には公開研究会を開催し、4人の研究成果を広く明らかにし、ひとはコメントを担当しました。そののち、ギャラリーをも含めて5人のメンバーとディスカッションをおこないました。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>研究の具体的な内容は、日本近現代作家や画家の近代京都とのかかわりとドイツへの関心です。</p> <p>森鷗外の『高瀬舟』、『うたかたの記』では、京都の地名からの京都再発見と鷗外のドイツに関する造詣の深さの再読を試みます。</p> <p>三島由紀夫に関する研究では、『金閣寺』や『わが友ヒットラー』で、無力な個人が動かし難い歴史の奔流にのみこまれて破滅する姿に、三島は何を託したのかを考察します。</p> <p>東山魁夷研究では、画集「京洛四季」やドイツを描いた文章・絵画から、魁夷のそれぞれの風土への憧れを読み取ります。</p> <p>村上春樹研究は、『ノルウェイの森』で直子の療養所を京都に設定して古都に愛着を示す春樹、また、ドイツ語圏の文学・音楽・歴史・思想に少なからず影響を受けている春樹をそれぞれに明らかにしています。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>H25/1/28 京都府立大学2号館文演Ⅰ 参加者約20名 ACTR 公開研究報告会「京都をめぐる、ドイツを愛した日本の作家たち」</p> <p>報告書「京都をめぐる、ドイツを愛した日本の作家たち」（府大図書館他、府内図書館で閲覧可） H25/3 発行</p>			
【お問い合わせ先】		文学部（研究科）青地研究室	職 教授・氏名 青地伯水 E-mail: h_aoji@kpu.ac.jp



